

「すてきなあいさつがあふれる町に」

花々が校庭を美しく飾っています。新緑も目に快く沁み、何をするにも心地よい季節となりました。さて学校では新学期から1か月近くが経ち、授業も本格的に始まり、子どもたちは目を輝かせ学んでいます。また、休み時間になると、ほとんどすべての子供と先生が運動場で楽しそうに遊んでいます。「学校は、こうでなくては」と思いながら毎日、目を細めて学校を回っています。新1年生も、すっかり学校に慣れ、元気に「あいさつ」できるようになっています。今月はその「あいさつ」について少しお話したいと思います。

故桂枝雀さんが落語のまくらで、「あいさつ」の意味について、こう話しておられました。

『人と出会って、あいさつをする時、「こんにちは」と言います。その後、「どちらへ？」と尋ねると、「ちょっとそこまで…」と答えます。「それは、それは、結構ですね。」となって、この会話は終わります。この会話には何一つ意味はございません。しかし、それでいいのです。つまり、「あいさつ」はそれ自体に意味をなす言葉なのではなくて、お互い安心するための符丁だからです。犬でも、猫でも、猿でも、どんな動物も怒っている時は、表情や態度に表します。「ウーッ」と言って牙をむき出しにしています。その様子を見て、「あー、機嫌が悪そうだな。怒っていきそうだな。」と感じ、不用意に近づかない方がよいと判断できます。ところが、人間という動物だけは、ニコニコと笑顔ですれちがっても、後ろに回っていきなり、「ゴンッ」と人をどつけるのです。人間は自分の周りに見せる表情と実際の心の有り様を違えることができる唯一の動物なんですね。そこで、「あいさつ」を交わすということが発明されたのです。「あいさつ」をすることで、「少なくとも、あなたの敵ではありませんよ。」と伝えているのです。

「あいさつは心をつなぐ魔法のことば」と朝会でも子供たちに話しましたが、これは人間だから必要な習慣なのですね。そういえば世界には100以上の言語がありますが、そのほとんどすべてに「あいさつ」があるのはそのためなのですね。

「あいさつ」は人が生きていく上で大切な習慣の1つです。気持ちの良い挨拶をし、自分も相手も幸せな気持ちになってほしいと思います。そして、この若宮がさらに「すてきなあいさつがあふれる町」になっていくことを願っています。

校長 宮武 幹生